

令和2年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 17	公益目的事業 19
主査名	森本章倫 早稲田大学教授	
研究テーマ	コンパクトシティとスマートシティの相互連携に関する研究**	
研究の目的： <p>人口減少下における持続可能な都市モデルとして、コンパクトシティの必要性が叫ばれ、日本各地でコンパクトシティ政策を実施する都市が増えている。一方で約 10 年前から始まったスマートシティの議論は、特定の分野特化型の取り組みから、環境、交通、エネルギー、通信など分野横断型の取り組みへと展開している。本研究では、コンパクトシティとスマートシティの都市モデルの概念を比較し、両者の共通点や相違点などを検証することで、2つの都市モデルの相互連携に向けた検討を行うことを目的とする。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>研究は主として以下の3つの課題に焦点を当てて、計4回の研究会を実施した。</p> <p>(1) コンパクトシティ政策を実施している都市でのスマートシティの動向把握 スマートシティに関連する都市モデルを整理し、シェアリングをキーワードにスマートシティのあり方について幅広く意見交換を行った。また、栃木県宇都宮市および群馬県嬭恋のスマートシティの現状と今後の展開を討議した。</p> <p>(2) 情報技術と物流政策からみた課題の整理 物流政策の現状と課題について情報提供を受けた。また、情報技術の進展が都市や物流に及ぼす影響を検討し、今後の物流政策のあり方についての有用な示唆を得た。</p> <p>(3) 融合に向けた概念の整理と提案 コンパクトシティとスマートシティの特徴について整理した。また、融合をマネジメントする組織や方法論について、各種事例を参考に討議した。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>コンパクトシティは空間集約を念頭に、行政が中長期的な誘導を行っているのに対して、スマートシティは情報連携を通して、民間が主体となって短期的に成果が出る事業が多く実施されている。特徴が異なる両者をつなぐ概念として、「スマートシェアリングシティ」を提示するとともに、社会全体の便益が上昇する都市のあり方を検討した。2つのモデルの相互連携の道筋について、一定のとりまとめと成果を得ることが出来た。</p>		
今後の課題： <p>コンパクトシティとスマートシティの違いを明らかにしてその統合概念を示したが、具体的な方法論については十分な検討まで至らなかった。より現実的な政策立案と事業計画の検討が今後の課題となる。</p>		